社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年8月号

[2面]

社会知性開発研究センター／中小企業研究センター

マレーシアのテクノロジ・マラ大学で国際会議共催

社会知性開発研究センター／中小企業研究センターが共催した「第4回グローバル経済における中小企業コンファレンス」がマレーシアのシャーアラムにおいて、7月9、10の両日開催され、61人の論文発表者、300人を超える聴衆を集め、成功裏に終了した。

例年、国際交流協定校であるオーストラリアのウーロンゴン大学が、マレーシアのテクノロジ・マラ大学と開催していたが、今回から本学も共催となり開催されたもの。

中小企業研究センターからは、大倉正典経済学部准教授、大林守商学部教授、手嶋宣之商学部准教授、及び鈴木健嗣・社会知性開発研究センター客員研究員が、オープン・リサーチ・センタープロジェクトの成果論文を発表し、盛んな議論が行われた。

報告論文は次のとおり。

▽大倉：中国企業の資金調達▽大林：日本企業のパテントストック評価
▽手嶋・鈴木：中国における中小企業向け株式市場の動向。

▲研究報告をする手嶋准教授

▲パネルディスカッションで発言する大林教授（左端）

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年8月号

[2面]

ネットワーク情報学部・情報科学研究所共同開催シンポ

ITイノベーション活性化に大学の使命とは

ネットワーク情報学部と情報科学研究所の共同開催で、シンポジウム「ITイノベーションと大学教育」が7月3日、生田キャンパスで行われた。

最新情報技術を駆使したさまざまな商品やサービスが身の回りにあふれている今、わが国が発展し続けるためには、ITイノベーション能力の育成が不可欠であり、大学教育にその期待がかかっている。しかし、ITを学ぶ学生は年々減少し、業界に対する誤解があるという現状を、産学連携で解決したいという趣旨で開かれたもの。

第1部の講演会は、日本アイ・ビー・エム株式会社執行役員の岩野和生氏を講師に迎え、「情報技術産業からみたビジネスと技術動向」をテーマに行われた。

第2部は、岩野氏と綿貫理明ネットワーク情報学部教授、松永賢次同准教授、飯田周作同准教授、大曽根匡経営学部教授がパネラーとなり、小林隆ネットワーク情報学部教授の司会で、パネルディスカッション「ITイノベーションを活性化する大学教育」が行われた＝写真。

学生主体で学ぶ「プロジェクト」や産学連携のインターンシップなどによって、理論と応用を学ぶ本学の教育プログラムをパネラーが発表した後、日本経団連・高度情報通信人材育成部会支援チームの座長も務める岩野氏は、「産業界が求めているのは即戦力ではなく、10年後、20年後に新しい流れを作り出せる人材。そのためには『基礎力』と『志』が重要だ。産業界と大学教員の意識をすりあわせ、実践を重視する教育が今後は求められる」と語った。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年8月号

［2面］

会計学研究所講演会

ソニー（株）元取締役経理本部長 大西昭敞氏が講演

会計学研究所（柳裕治所長）主催による会計学講演会が6月26日、生田キャンパスで開催され、学生・院生・教員約450人が聴き入った。

柳所長のあいさつと講師紹介に続き、ソニー（株）元取締役経理本部長の大西昭敞氏＝写真＝が「国際企業における経営と会計実務―財務諸表を軸として―」と題して講演した。

1960年代の日本とアメリカの金融事情の違い、ソニーが事業資金調達方法を従来の銀行主体から株式公開調達方法に切り替え、株式会社制度の本格的活用の先鞭をつけたたこと、投資家・株主への会社情報の公開、利益還元責務など、株式会社制度の導入経緯と仕組みを説き、会社が開示する情報の中で特に重要な財務諸表に関する作成基準特に国際会計基準への日本の取り組みや今後の動向のほか、内部統制組織の構築、監査法人の役割、管理会計など、自己の豊富な経験をもとに分かりやすく語った。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

文学部

高校の先生方に研修開催

教育交流の場に

文学部は、専修大学創立130年記念事業として「高校教員対象研修プログラム」を7月30日から8月2日まで、生田キャンパスで開催した。

昨年好評だった英語、地理、倫理、日本史、世界史のプログラムに、現代社会と国語も新たに加え、151人の高校教員が参加。富山、新潟、山形などからの参加もあった。

初日の開講式で矢野建一文学部長は、「昨年より多くの参加をいただき感謝している。大学からの一方的な講義に終わるのではなく、教育交流の場として活用していただきたい」とあいさつした。

現代社会のプログラムでは「社会学と社会調査・フィールドワーク」「比較社会論から見たグローバル化と文化変容」の講義の後、多摩区中野島の特別養護老人ホームで、「少子高齢社会と福祉教育」、横浜市鶴見区で「鶴見の多文化コミュニティ」の現地講習も行われた。

▲あいさつする矢野建一文学部長

▲LL教室で行われた「英語」のプログラム

▲「世界史」「日本史」には多くの参加が…

▲「ベルンシュタイン・コレクション」の解説も

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版

2007年8月号

[2面]

英語英米文学科

高校生に学習の“コツ”伝授

文学部英語英米文学科の教員が、英語を学ぶ上での「コツ」を高校生に伝授する公開セミナー「高校生のための英語学習法」が7月14、21の両日行われ、高大連携協定校の生徒ら延べ140人が参加した。教員は田邉祐司教授、並木信明教授、上村妙子教授、ジェフェリー・C・フリックマン准教授の4人。

14日は田邉教授が「Mind the Gap＝基本表現の落とし穴」を、並木教授が映画『美女と野獣』の音楽を使って「ポップスで楽しく学ぶ英語」を講義。いずれも両教授のゼミ生がアシスタントを担当した。

▲田邉教授の講義はコミュニケーションを取りながら楽しんだ

▲音楽を聴きながら学んだ並木教授の講義

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす
専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年8月号

[2面]

≪専修人の新しい本≫

国際安全保障論 I
転換するパラダイム

佐島 直子 著

本書『国際安全保障論 I—転換するパラダイム』は、「叢書『日本の安全保障』シリーズ」の初回配本（第3巻）となる。同シリーズは「安全保障」問題の啓蒙書として続刊予定であるが、なかでも本書は最も基礎的、導入的な内容となっている。著者いわく、「『安全保障』は端的に言えば、自らの『命』の問題である。そして『命』は、自らを取り巻く社会の安定や公益性と不可分であり、現実には自国と国際社会との平和的共存に依拠している。而して、今を生きる一人一人が、自らは地球的規模での世界的恒久的発展と無縁ではない、と気がつくことが『安全保障』を学問する第一義的価値である」（はしがきより）。

充実した図表や用語解説、索引など、初学者にも読みやすい工夫がこらされている（内外出版・本体2000円＋税）。

著者（さじま・なおこ）＝経済学部教授、主な担当は英語。

四文字ART

仲川 恭司ほか 著

好評の一文字・二文字・三文字ARTに続くシリーズの第4弾。「水滴石穿」「明鏡止水」「寂然不動」「森羅萬象」「上善若水」「温故知新」……。書道展覧会でよく目にする漢字四文字を、楷・行・草・隷・篆（てん）書体などのさまざまな書風で紹介している。

右ページに古典からの集字、左ページには仲川、石飛博光、藏元訓征、辻元大雲の4氏と4氏の関係者、弟子に当たる22氏の創作作品を掲載。書家それぞれの個性が発揮されている。作品ごとに書き手のひと言、語句の出典や意味も記されているので、鑑賞力も身につく。創作意欲をかき立てる一書（日本習字普及協会・本体3000円＋税）。

共著者（なかがわ・きょうじ）＝文学部教授。担当は書道。毎日書道会監事、独立書人団副理事長。

専修大学商学研究所叢書6

経営の新潮流
コーポレートガバナンスと企業倫理

赤羽 新太郎 編著

商学研究所（上田和勇所長）は2001年、創立35周年記念事業の一つとして産学協同のプロジェクトチームによる研究を発足させた。本書は、03年から3年間にわたり行われた「経営の新潮流」プロジェクトによる研究成果である。最終年に行われたシンポジウム「企業の社会的責任とは何か」での活発な討議もベースとなっている。古くて新しい課題である「企業の社会的責任」の問題を開く、「鍵」となる社会的責任再論を示している（白桃書房・本体2400円＋税）。

編著者（あかはね・しんたろう）＝商学部教授。第6章＝大柳康司経営学部准教授、第7章＝国田清司商学部准教授、第8章＝黒川保美商学部教授。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.